

「新・群馬県総合計画」の評価検証について

概 要

- 「新・群馬県総合計画（基本計画）」の2024年度（４年目）の実績について、評価検証を実施
- 毎年度、評価検証を実施し、ビジョン実現に向けた取組を着実に推進

1 検証対象

「ビジョン実現に向けた７つの政策の柱」の重要業績指標（KPI）及びロードマップの進捗状況

2 検証方法

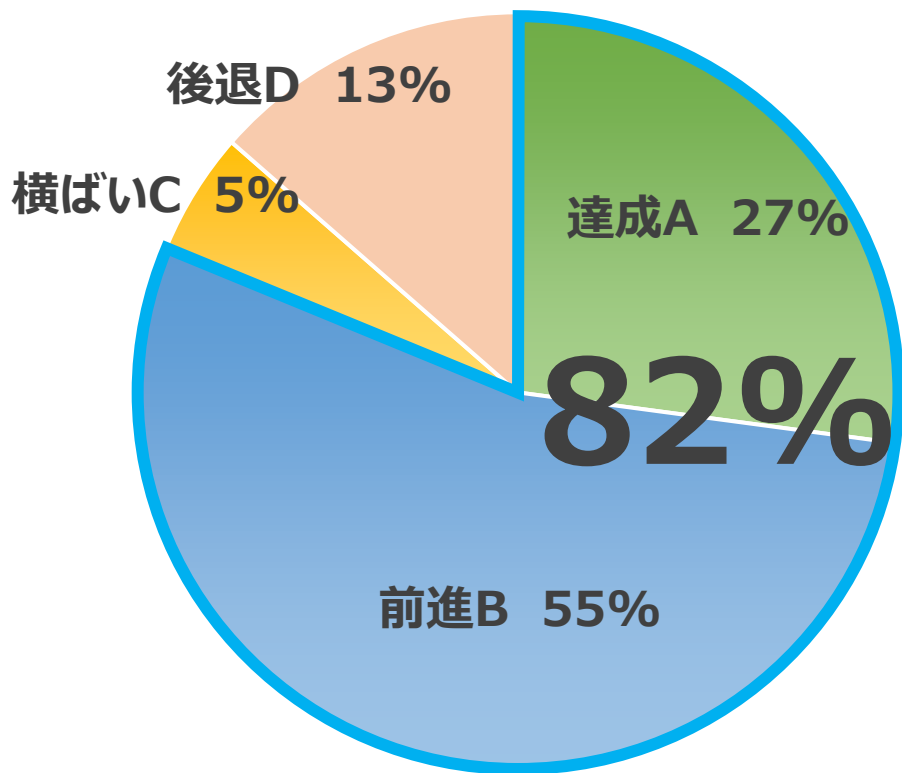
各部局による自己評価を基本とし、外部有識者（「新・群馬県総合計画に係る懇談会」）の意見も踏まえ、結果をまとめる

3 結果公表

「新・群馬県総合計画ポータルサイト」にて公表

「新・群馬県総合計画」4年目（2024年度）の評価検証結果

2024年度（KPI実績）



■進捗状況

- 【達成A】 実績値が目標値を上回り、達成した状態
- 【前進B】 実績値が目標に向かい、基準値（策定時）から前進している状態
- 【横ばいC】 実績値が基準値（策定時）から変動が見られない状態
- 【後退D】 実績値が基準値（策定時）の数値より後退している状態

※割合（%）は未確定を除く【達成A】～【後退D】の小計を分母にしている

総括

進捗状況は、概ね良好

有識者意見も踏まえ、引き続き、目標達成に向けさらなる取組を進めていく。後退したKPIについては、要因分析を行った上で、その解決に向けた取組を進めていく。

- 59のKPIについて、調査時点での直近の実績値を元に評価検証を実施
- KPI全体の進捗状況は、「達成A」+「前進B」の割合が82%
- 一方、「横ばいC」+「後退D」の割合は18%
- 「後退D」となったのは8つのKPIで、その割合は減少している。また、そのうち、3つのKPIは前年から実績値が前進している。
- 【「新・群馬県総合計画に係る懇談会」有識者意見】
 - 「デジタルが当たり前」という認識が広まった一方で、コロナ後は対面の働き方が創造性・生産性の面で再評価された。
 - デジタル化が進むほど、人の価値が高まり、アナログな営みが付加価値になる。
 - 国でもクリエイティブ産業の成長性が謳われているが、産業人口が不足している。群馬県が先駆けてtsukurun、TUMOで人材育成に動いているので、リーダーシップに期待している。
 - 新・総合計画を中高生などの若者に見てもらい、これにより様々な成果が出ていることを、県民に実感として伝えていける機会があるとよい。
 - 群馬県の農業は外国人労働者に依存している。農業を地域基盤と再定義し、環境・防災・福祉と連携することで多文化共生の場となる。